

市立八幡病院ソフトアップ委員会について

副院長 伊藤 重彦

ソフトアップ委員会は、昨年新しくできた八幡病院の委員会です。ソフト(soft)は感触・印象などが優しくて柔らかなさまの意味です。アップ(up)は



向上する、レベルを上げるなどの意味です。

2つを合わせた造語の委員会の目的は、それぞれの職員の表情や言葉が患者さんや職場の仲間に優しく、常に好印象であることを目指すことです。具体的には、1.笑顔で挨拶する、2.身だしなみに気を配る、3.失礼のない、丁寧で優しい言葉使いをする、4.病院周囲の清掃を行い健やかな環境作りに努めるなど、挨拶と接遇を重点項目として活動しています。患者さんからこの病院で診てもらってよかったです、医師や看護師さんが優しかったと言われるように職員一同頑張ります。

院内で働くスタッフの紹介バトンリレー!

スタッフ紹介



検査課

光末 后希

1. どのような仕事をしていますか?

普段は、主に手術材料を取り扱う病理検査を行っています。また、夜間や土日の勤務の時は血液検査や尿検査などを行っています。

2. 頑張っていることはなんですか?

病理検査は結果を出すまでにどうしても時間がかかることが多いのですが、出来るだけ早く診断がつくよう頑張っています。

3. 趣味・特技は何ですか?

あまり参加できていませんが、時間があるときは放射線課の方や看護師の方たちと一緒にバレーボールをしています。

4. 自分の性格は?

人見知りな性格なので、打ち解けるまでに時間がかかることが多いのですが、慣れてくると、イメージと全然違う人だったとよく言われます。

5. これから挑戦したいことは?

姉から誕生日プレゼントでスムージーを作るセットをもらったので、スムージー作りに挑戦してみようと思います。

6. 最近うれしかったことは?

最近私の周りがベビーラッシュなので、みんなの赤ちゃんを見ているととても癒されて幸せな気持ちになります。

7. 今、困っている事は?

とても冷え症です。体質改善をしていきたいのですが、何か良い方法がありましたら教えてください。

8. 患者さんに何かひとことお願いします。

普段、患者さんと直接接する機会があまりありませんが、何かございましたら気軽にお声かけください。

9. 次にどなたか紹介してください。

優しくて、面白くて、頼りがいがあり、バレーボールがとても上手な、放射線課の九町さんをご紹介します。

編集
後記

いよいよ夏本番ですね。このぐらい大丈夫と過信せずに、こまめに水分を取り、熱中症に気をつけましょう。今後も皆さんの興味ある話題を取り上げたいと思いますので、次回も楽しみにして下さい。

山本 朗子



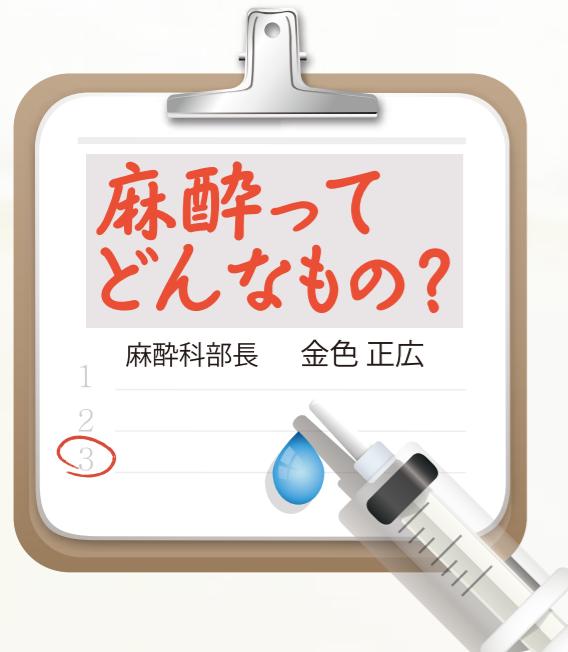
副院長

兼 消化器・肝臓病センター長
産業医科大学医学部臨床教授(第一外科学)
佐賀大学医学部客員教授兼臨床教授(救急医学)

岡本 好司

C型肝炎ウイルス発見から約30年、肝炎、肝硬変、肝細胞癌と進行する厳しい病気でした。治療も、インターフェロン注射と経口抗ウイルス薬を用いて体の免疫を刺激してウイルスをたたく治療と肝庇護剤を使用して肝炎を沈静化し肝炎や肝硬変への悪化を遅らせる方法が主でした。近年抗ウイルス薬の新薬が次々と発売され、その治療は様変わりしました。C型肝炎ウイルスに直接作用する抗ウイルス薬により肝炎ウイルス排除は、95-98%となっています。具体的には、C型肝炎ウイルスの型を検査し(1型(1a,1b) 2型(2a,2b)等)、型別に効果の高い薬剤を使用します。12~24週間服用す

れば終了です。新薬は、非常に高価で1日あたり7~8万円します(行政の補助制度あり)。他の治療中の薬剤との飲み合わせの問題や腎機能との兼ね合いなどがあり、治療は肝臓専門医のもとで行われることが推奨されています。最後に治療に成功しウイルスが排除されても、定期的に医療機関に通院し、超音波やCT検査などで肝細胞癌発癌のチェックを少なくとも10年間は受けて下さい。肝機能が保たれれば、例え肝細胞癌が発症しても根治する可能性が非常に高くなります。



麻酔って どんなもの?

麻酔科部長 金色 正広

1

2

3



- 麻醉って、どんなものでしょう？
- 歯の治療のときの痺れる注射ならわかるけど…。
- 痛みをとるもの…？
- 眠らせるもの…？
- 背中から注射する方法もあるって聞いたけど…。
- どれも正解です。

一言でいうと安全で快適に手術を受けていただけるようにする技術かも知れません。

手術の種類、手術にかかる時間、患者さんの状態(日常生活のご様子や他にお持ちのご病気の種類・その程度)などにより最も適した麻酔の方法が決まります。

同じ手術を受けられても、患者さんによっては多少麻酔の方法が違うことがあるのはこのためです。

もともと人のからだには、状態に応じて適切に血圧や呼吸、体温などを調節し、上手くバランスをとる多くの良い仕組みがあります。

ところが、その良い仕組みも手術にともなう様々な刺激によっては、逆にからだに大きな負担を与えてしまうことになります。

十分に痛みを取り、怖さや不快な意識をなくすことによって、からだの負担を減らすとともに、手術がしやすいように筋肉の緊張を取ります。

さらに、本来持っているからだの良い仕組みに代わり、モニターという機械で患者さんからの様子をみながら、お薬で血圧を調節したり、必要に応じて適切

な人工呼吸を行ったり体温を調節したりして、手術が終わった後にはまた元のからだの良い仕組みに戻してあげるのが私たち麻酔科医の仕事です。

現在、手術の麻酔はすごく安全にできるようになりました。しかし、残念ながら医療行為に100%はありません。

ごくまれにですが、麻酔や治療に使う薬剤に対してアレルギーを含めた過敏な反応が出ることもありますし、ご本人も知らなかつた他の隠れたご病気や異常が手術中に突然現れることもあります。

そのような時にも適切に対応できるよう、私たち麻酔の専門医は常に知識・技術を磨くとともに、手術室の看護師とともに安心して手術をお受けいただけるように配慮しています。

“より安全に！より快適に！”を目指して努力していますので、手術・麻酔に関してわからないことや心配なことがあれば、手術前に麻酔科医や手術室看護師が訪問しますので遠慮なくお聞きください。

安心して手術を受けられるために

周術期管理チーム看護師 郷田 ありさ

ん一人一人に合った医療、看護を提供できるよう心がけています。また、手術前には術前訪問を行っており、患者さんやご家族とお話をさせて頂くことで、不安の軽減やリスクの早期発見に繋がるよう努めています。

この度周術期管理チーム看護師の資格を取得しました。手術中だけではなく、手術前や手術後も患者さんに関わっていきたいと思っています。どんな事でも構いませんのでご相談ください。

当院手術室では年間約1500件の手術を行っています。手術の内容も様々で幅広い年齢層の方が手術を受けられます。救急病院の為、365日24時間緊急手術にも対応しています。

「手術」は非日常的で大きな出来事です。どの患者さんも「手術」に対して漠然とした不安を持たれており、患者さんのご家族も同様だと思います。私たち手術室スタッフは不安なく安全に手術を受けて頂けるよう、日々医師やスタッフ間で情報を共有し、患者さ

??



知っておきたい感染症・感染対策

No.23

ICT委員会
感染対策チーム



蚊やマダニによる虫刺されに ご注意を！

夏になり、虫刺されが気になる季節になりました。最近では、虫刺されによる重大な感染症が報告されています。今回は、虫刺されによる感染症とその対策についてのお話です。

日本では、蚊の媒介による日本脳炎、ダニの媒介によるつつがむし病が代表的な感染症ですが、世界的には、蚊ではデング熱やジカ熱、ダニでは重症熱性血小板減少症(SFTS)などの感染症が報告されるようになりました。昨年は、福岡県内でもSFTSが報告されており、対岸の火事ではありません。

畑仕事や山や川など、虫の多い場所に出かける時は、長袖、長ズボン、帽子や手袋などを身につけ、肌を露出しない服装で出かけましょう。虫よけスプレーも有効です。

もしもマダニに咬まされたら、絶対に自分で取ってはいけません。すぐに医療機関を受診して適切に処理してもらいましょう。